

鶴間和幸先生研究業績

一 著書

『秦漢帝国へのアプローチ』山川出版社、一九九六年

* 韓国語版：『진한제국 어프론키 (秦漢帝国アプローチ)』DKS PUBLISHING HOUSE 二〇一二年

『始皇帝の地下帝国』講談社、二〇〇二年

『秦の始皇帝と伝説と史実のはざま』吉川弘文館、二〇〇一年

* 韓国語版：金慶浩訳『진시황제 (秦始皇帝)』청어람미디어、二〇〇四年

『始皇帝陵と兵馬俑』講談社学術文庫、講談社、二〇〇四年

『ファーストエンペラーの遺産 秦漢帝国』講談社、二〇〇年

* 中国語版：馬彪訳『始皇帝的遺産 秦漢帝国』広西師範大学出版社、二〇一四年

* 台湾版：李彦權訳『始皇帝的遺産 秦漢帝国』台湾商務印書館、二〇一八年

『秦帝国の形成と地域』汲古書院、二〇一三年

『人間・始皇帝』岩波新書、岩波書店、二〇一五年

* 中国語版・楊振江・単印飛訳『始皇帝 秦始皇和他生活的時代』中信出版集團、二〇一九年

* 韓国語版・金慶浩訳『인간사황제 (人間始皇帝)』AK、二〇一七年

『ファーストエンペラーの遺産 秦漢帝国』講談社学術文庫、二〇一〇年

二 翻訳

蘇曉康編『黄河文明への挽歌―「河殤」と「河殤」論』学生社、一九九〇年

『中国玉器発達史』上下、科学出版社、二〇一九年（監訳鶴間和幸・菅野恵美訳）

三 共著

『世界歴史大系中国史1』山川出版社、二〇〇三年

『日本にとって中国とは何か』中国の歴史111、講談社、二〇〇五年

* 中国語版・陳柏傑訳『日本人眼中的中国』台湾商務印書館、二〇一七年

『世界歴史の旅 中国古代文明』山川出版社、二〇〇六年

『中国文明の謎』NHK出版、二〇一二年

『中夏文明の誕生』講談社、二〇一二年

四 編著

- 『岩波講座世界歴史3 中華の形成と東方世界』岩波書店、一九九八年
- 『世界四大文明 中国文明展』NHK、二〇〇〇年
- 『四大文明 中国』NHK出版、二〇〇〇年
- 『辺境から中華へ “帝国秦への道” 秦の始皇帝と兵馬俑展』共同通信社、二〇〇〇年
- 『よみがえる四川文明』共同通信社、二〇〇四年
- 『大兵馬俑展』産経新聞社、二〇〇四年
- 『中国世界遺産の旅2 中原とシルクロード』講談社、二〇〇五年
- 『始皇帝と彩色兵馬俑展 司馬遷『史記』の世界』TBS、二〇〇六年
- 『黄河下流域の歴史と環境』東方書店、二〇〇七年
- 『東アジア海をめぐる交流の歴史的展開』東方書店、二〇一〇年
- 『誕生！中国文明』中央公論新社、二〇一〇年
- 『東アジア海文明の歴史と環境』東方書店、二〇一三年
- 『宇宙と地下からのメッセージ〜秦始皇帝陵とその自然環境』D_CODE、二〇一三年
- 『秦の始皇帝と兵馬俑』洋泉社MOOK、二〇一五年
- 『秦の始皇帝と兵馬俑の謎』別冊宝島、二〇一五年
- 『春秋戦国時代合戦読本』宝島社、二〇一七年

『悪の歴史』東アジア編上、清水書院、二〇一七年

『東アジア古代都市のネットワークを探る 日・越・中の考古学最前線』汲古書院、二〇一八年

『馬が語る古代アジア世界史』汲古書院、二〇一八年

『始皇帝全史』株式会社カンゼン、二〇一九年

『始皇帝大全ビジュアルブック』ぴあMOOK、二〇二〇年

『俠の歴史』東洋編上、清水書院、二〇二〇年

五 論文

「漢代豪族の地域的性格」『史学雑誌』第八七編第一二号、一九七八年

「漢律における墳丘規定について」『東洋文化』六〇、一九八〇年

「秦漢期の水利法と在地農業経営」『歴史学研究別冊特集——一九八〇年度歴史学研究会大会報告』一九八〇年

「漢代における関東・江淮豪族と関中徙民」『中嶋敏先生古希記念論集』上巻、一九八〇年

「天心の中国認識——『支那南北の区別』をめぐって」『茨城大学五浦美術文化研究所報』第九号、一九八二年

「中国古代史研究における新しい課題——地域論的方法の有効性」『史学通信』第六号、一九八二年

* 中国語版：「漢代豪族論與地域史研究」『中国史研究動態』一九八五—七（中国社会科学院歴史研究所）一九八五年

「中国古代の水系と地域権力」『佐藤博士退官記念中国水利史論叢』一九八四年

「秦帝国の形成と地域―始皇帝の虚像を超えて」『歴史と地理』三七二（山川出版社）、一九八六年

* 中国語版…「秦帝国の形成與地域―文化的統一與地域」『中国秦漢史研究会通訊』第二期、一九八六年

「漢代皇帝陵・陵邑・成国渠調査記（1）―皇帝陵の位置の比定と形式分類」『茨城大学教養部紀要』第一九号、一九八七年

「漳水渠・都江堰・鄭国渠を訪ねて―秦帝国の形成と戦国期の三大水利事業」『中国水利史研究』第一七号、一九八七年

「漢代皇帝陵・陵邑・成国渠調査記―陵墓・陵邑空間と灌漑区の関係」『古代文化』第四一巻第三号、一九八九年

「秦漢比較都城論―秦咸陽・漢長安城の建設プランの継承」『茨城大学教養部紀要』第二三号、一九九一年

「古代中華帝国の統一と地域―秦帝国の法の統一とその虚構性」『史潮』新三〇号、一九九二年

「秦帝国による道路網の統一と交通法」池田温編『中国礼法と日本律令制』東方書店、一九九二年三月

「秦帝国の形成と東方世界―始皇帝の東方巡狩経路の調査をふまえて」『茨城大学教養部紀要』第二五号、一九九三年

「長久保赤水と中国歴史地図の編纂」（周振鶴との共著）『五浦論叢』（茨城大学五浦美術文化研究所紀要）第一号、一九九三年

* 中国語版…「長久保赤水和他的中国歴史地図」（共著）『歴史地理』第一一輯、一九九三年

「秦始皇帝諸伝説の成立と史実―泗水周鼎引き上げ失敗伝説と荊軻秦王暗殺未遂伝説」『茨城大学教養部紀要』第二六号、一九九四年

「古代巴蜀の治水伝説の舞台とその背景―蜀開明から秦李冰へ」『中国水利史の研究』国書刊行会、一九九五年

* 中国語版…「古代巴蜀の治水伝説及其歴史背景―從蜀開明到秦李冰」四川大学歴史系編『中国西南の古代交通

「與文化」四川大学出版社、一九九四年

「秦始皇帝陵建設の時代—戦国・統一・対外戦争・内乱」『東洋史研究』第五三卷第四号、一九九五年

* 中国語版…「秦始皇陵修築的時代—戦国・統一・内乱・外争」秦始皇兵马俑博物館編『秦文化論叢』第三輯、一九九四年

「秦楚の争覇と中国の統一—秦と楚・越の戦争の背景」『日中文化研究』第七号、一九九五年

「漢代における秦王朝史観の変遷—賈誼『過秦論』、司馬遷『秦始皇本紀』を中心として」『茨城大学教養部紀要』第一八号、一九九五年

「司馬遷の時代と始皇帝—秦始皇本紀編纂の歴史的背景—」『東洋学報』第七七卷第一・二号、一九九五年

「秦始皇帝の東方巡狩刻石に見る虚構性」『茨城大学教養部紀要』第三〇号、一九九六年

「秦長城建設とその歴史的背景」『学習院史学』第三五号、一九九七年

「黄土高原とオルドスの民の世界」『黄土高原とオルドス—中国西北路寧夏・陝北調査記—』勉誠社、一九九七年

「中華の形成と東方世界」『岩波講座世界歴史』三 中華の形成と東方世界 岩波書店、一九九八年

「歴史の叙法—過去と現在の接点—」『岩波講座世界歴史』一 世界史へのアプローチ 岩波書店、一九九八年

「帝国と支配」(共著)『岩波講座世界歴史』五 帝国と支配—古代の遺産 岩波書店、一九九八年

「秦始皇帝長城伝説とその舞台—秦碣石宮と孟姜女伝説をつなぐもの—」『東洋文化研究』第一号、一九九九年

* 中国語版…「秦始皇修長城的伝説與其舞台—秦碣石宮和姜女伝説之聯系」『安作璋先生文集 從教50周年紀年文集』泰山出版社、二〇〇一年

「中国文明、その伝統と自然」『世界四大文明中国文明展』NHK、二〇〇〇年

- 「中国文明への新しい視点」『四大文明中国』NHK出版、二〇〇〇年
- 「辺境から中華へ―帝国秦への道―」『秦の始皇帝と兵馬備展』共同通信社、二〇〇〇年
- 「秦始皇帝と徐福伝説」『東アジア史の展開と日本―西嶋定生博士追悼論文集』山川出版社、二〇〇〇年
- 「文明と自然と歴史学―中国古代史へのアプローチ」『歴史遊学―史料を読む』山川出版社、二〇〇一年、『増補歴史遊学』山川出版社、二〇一一年
- 「王権と農業支配―古代中国」『岩波講座天皇と王権を考える』第三卷、岩波書店、二〇〇二年
- 「漢と西域とローマ」『文明の道―海と陸のシルクロード』NHK出版、二〇〇三年
- 「よみがえる四川文明―歴史と伝説と考古学―」『よみがえる四川文明―三星堆と金沙遺跡の秘宝展』共同通信社、二〇〇四年
- 「秦漢帝国と東アジア海域」『東アジア海域をめぐる交流の歴史的展開』東方書店、二〇一〇年
- 「中国文明から東アジア文明へ―文明の多様性と多元性」『東アジアの歴史と社会』放送大学教育振興会、二〇一〇年
- 「古代中国の水利灌漑」『東アジアの水利灌漑と狭山池』狭山池シンポジウム二〇一一年、二〇一一年
- 「歴史学と自然科学―始皇帝陵の自然環境の復元」『環境と歴史学―歴史研究の新地平』勉誠出版二〇一〇年
- 「秦都咸陽與秦始皇陵」『一統天下―秦始皇帝の永恒国度国際学術研討会論文集』二〇一二年
- * 中国語版…『史念海先生百年誕辰紀念学術論文集』陝西師範大学出版社有限公司、二〇一二年
- 「秦帝国の水利と自然」『中国―中国水利史』東方書店、二〇一二年
- 「東アジア海文明と環境への認識」『東アジア海文明の歴史と環境』東方書店、二〇一三年
- （共著）「衛星データを用いた秦始皇帝陵の陵園空間に関する一考察」『中国考古学』第一四号、二〇一四年

〔共著〕「古代中近世東アジア世界における日中関係史」『日中歴史共同研究』報告書』第一巻古代・中近世篇、勉誠出版、二〇一四年

〔共著〕「多衛星データを用いた秦帝国の空間的考察」『学習院大学国際研究教育機構研究年報』第三号、二〇一七年

〔漢武帝の時代の外交と内政〕『東アジア古代都市のネットワークを探る 日・越・中の考古学最前線』汲古書院、二〇一八年

〔秦始皇帝陵出土銅車馬に見る制御システム〕『馬が語る古代アジア世界史』汲古書院、二〇一八年

〔共著〕「衛星リモートセンシングデータと歴史資料を用いた秦東門考察―『太平寰宇記』を中心に―」『学習院大学国際研究機構研究年報』第四号、二〇一八年

〔中国古代美術の海外流出調査記〕『東方学』第一三七輯、二〇一九年

〔中国古代美術の海外流出調査記（その二）〕『東方学』第一三八輯、二〇一九年

〔中国淮北平原調査記〕『学習院大学文学部年報』第六五輯、二〇一九年

六 小論

『中国史入門 2 秦漢時代』（共著）山川出版社、一九八三年

「最近の中国における古代史分期問題の討論―中国古代史分期問題学術討論会綜述」『中国研究月報』三七六号、一九七九年

書評・木村正雄著『中国古代農民叛乱の研究』『史学雑誌』第八九編第五号、一九八〇年

「一九七九年の歴史学界―回顧と展望…戦国秦漢」『史学雑誌』第八九編第五号、一九八〇年

* 史学会編『日本歴史学界の回顧と展望12中国―殷々漢』山川出版社、一九八七年所収

「万里の長城は外敵をふせげたのか」『歴史地理教育』四一〇、一九八七年

* 歴史教育者協議会編『一〇〇問一〇〇答世界の歴史』河出書房新社、一九九〇年所収

「金縷玉衣に包まれた中山王夫妻 満城漢墓」『歴史読本ワールド特別増刊』一九八七年

* 『世界謎の古代文明』新人物往来社、一九九二年加筆採録

「始皇帝の時代と背景―始皇帝の実像と虚像」『特別公開始皇帝陵の做秦銅馬車と兵馬俑』一九八七年

「戦国中山陵」『高校通信・東書』一四五、一九八八年

「兵馬俑坑―地下に配備された壮大な軍陣地」『朝日百科世界の歴史』一二、一九八九年

「秦の始皇帝の天下統一と騎馬軍団」『FRIENDRY』Vol. 一八、一九八九年

書評・大櫛敦弘「漢代の中家の産に関する一考察―居延漢簡所見の「賈・直」をめぐって」『法制史研究』三六、一九八六年

「東アジアのなかの日本―韓国での集中講義を終えて」『茨城大学学生新聞』一九九〇年二月二五日

「二人の中国人の悲しいこと」『茨城大学教養部報』一九九〇年二月一日

『朝日人物事典』朝日新聞社、一九九〇年

白鳥庫吉 榎一雄 西嶋定生 浜口重国 植村清二 三上次男 板野長八 守屋美都雄 永積昭 鎌田茂雄 石

田幹之助 市村賛次郎 山本達郎 山口瑞鳳

「東アジア地中海時代の夜明け」『新しいばらき』一九九一年一月一四日

書評・「平林美鶴著『北京の嵐に生きる』」『東亜』二九八、一九九二年

「中国陝西省西安交通大学発見の前漢天文四神壁画墓」『東方』一四三号、一九九三年二月

「『皇帝』たるには東方を圧すべし—劉邦の大粛清」『歴史群像』三三三、一九九三年

「私と図書—中国古代の木簡を求めて考えること」『茨城大学附属図書館報』創刊号、一九九三年

「中国古代の文化とシルクロード」(教育講演会講演要旨)『文教水戸』第三三号、一九九三年三月一七日

「始皇帝と司馬遷の足跡を追って」『歴史と旅』一九九四年二月号

「中国古代の土木技術—秦の天下統一を支えた城壁・運河建設の巨大プロジェクト」『クロニック世界全史』講談社、一九九四年

「秦帝国の形成と地域」(講演)『旧中国における地域社会の特質』名古屋大学文学部、一九九四年三月

「古代巴蜀の治水伝説の舞台とその背景—蜀開明から秦李冰へ」『中国水利の歴史的研究』科学研究費補助金研究成果報告書、一九九四年

『詳解世界史』清水書院、一九九四年四月

「東アジア文明の成立」

1 黄河文明とその周辺 2 部族国家から古代国家へ 3 秦・漢統一帝国の形成

* 中国の専制王朝と農民(民衆の歴史二コラム)

「東アジア世界の形成と発展・概観」

1 三国の分裂と北方遊牧民族 2 江南の開発と南朝の貴族社会 3 東アジア周辺民族の動き 4 隋・唐帝国

* 中国古代の南北の生活(民衆の歴史三コラム)

『歴史学事典』二からだとくらし、弘文堂、一九九四年

棺 屍衣 陵 鶏 髭

『小学館百科事典』一九九四年

荆軻 推恩の令 西域都護 桑弘羊 妲己 趙高 張良 中原 陳勝吳広の乱 班固 班超 明帝 蒙恬 予讓
李斯 和帝 大秦

「始皇帝統一事業の実態を明かす」歴史群像『秦始皇帝』学研、一九九五年

「列強の狭間に消えた王国 中山王国」同右

書評・原宗子「古代中国の開発と環境『管子』地員篇研究」『史学』第六五卷第一・二号、一九九五年

「上海・長江・南京・黄河」『世界歴史文化大事典』教育出版センター、一九九五年

「歴史研究と地域―中国古代史の場合」銚田町史研究『七瀬』第六号、一九九六年

「長江流域の地域史としての長江文明―失われた巴蜀・荆楚・呉越史の復権」『日中文化研究』長江文明Ⅱ第一〇号、一九九六年

翻訳・劉信芳「秦代の竹簡」同上

コメント・原宗子「『農本』主義の採用過程と環境」『史潮』新四〇号、一九九六年

「序にかえて 安劍星君へのお礼の手紙」安劍星『僕は毛主席の紅衛兵だった』透土社、一九九六年

「中国古代の水上交通と江南の徐福伝説」佐賀徐福長寿館開館一周年記念日中友好シンポジウム「弥生のナゾ―徐福に迫る」一九九六年六月二日配布資料

「黄河文明」『NEXTAGE』No.五十一、一九九七年四月

- 「中華の形成と東方世界」『学習院史学』第三六号、一九九八年
- 「天心と中国」『岡倉天心と五浦』中央公論美術出版、一九九八年
- 「漢代画像石からの歴史の読みとり①」⑧『歴史と地理』五一三～五三一、一九九八～二〇〇〇年
- 「講演 中華の形成と東方世界」『学習院史学』第三六号、一九九八年
- 「始皇帝暗殺伝説とその時代」『始皇帝暗殺メイキング&ストーリーブック』角川書店、一九九八年
- 「西嶋定生先生の想い出」『博古研究』第一六号、一九九八年
- 『歴史学事典』第六卷「歴史学の方法」、弘文堂、一九九八年
- 漢魏洛陽城遺跡 漢長安城遺跡 唐長安城遺跡 半坡遺跡 兵馬俑 集落遺跡 都城遺跡 墳墓 征服王朝
「ウィットフォーゲル」『20世紀の歴史家たち(三) 世界編』刀水書房、一九九九年
- 「中国文明見直しの新しい視点―中国両大河流域の文明」『歴史地理教育』No.五八九、一九九九年
- 「検証・秦の始皇帝の戦い―統一戦争の実態」『月刊しにか』一九九九年二月号
- 「1世界史を学ぶ」「4黄河と長江の恵み」「5始皇帝の時代」「6国際都市長安の繁栄」「7東アジアの海の交流」コラム「世界の四大文明論の見直し」NHK教育セミナー『歴史で見る世界』一九九九年
- 「不老不死を求めた始皇帝―不滅の帝国の幻想」『アジア遊学』二、一九九九年
- 「世界の文化遺産 死後の皇帝を守る大軍団」『週刊朝日百科・日本の国宝』一九九九年
- 「中国史書の伝統の始まり」『世界の文学』一〇号、一九九九年
- 「秦王朝・帝国への道」『月刊しにか』二〇〇〇年二月号
- 「秦漢文明の繁栄」「北魏征服王朝の時代」「兵馬俑の色から見る中国古代史」『歴史で見る世界』日本放送出版協会、

二〇〇〇年

- 「漢長安城の自然景観」『漢長安城調査日記』「黄土高原西部調査」『アジア遊学』二〇、勉誠出版、二〇〇〇年
- 「対談 中国古代の美 不思議な輝き」(鶴間和幸・谷豊信)『美術の窓』No.二〇七(生活の友社)、二〇〇〇年一〇月
- 「秦の始皇帝と民衆の生の証―兵馬俑展に寄せて」『信濃毎日新聞』二〇〇〇年一〇月二日
- 「世界四大文明展―自然を生かす知恵を学べ」『北國新聞』二〇〇一年一月二〇日
- 「古代文明に見えるグローバルイズム」『キーワードで探る 四大文明』NHK出版、二〇〇一年
- 「中国文明の遺産―中国文明展に寄せて」『四国新聞』二〇〇一年二月三日
- 「泰山刻石・琅邪台刻石―始皇帝帝国の顕彰碑の虚実」『月刊しにか』二〇〇一年三月号
- 「始皇帝研究のその後」『本郷』三八、二〇〇二年三月
- 「秦の始皇帝はなぜ中国を統一できたのか?」『王と皇帝』『月刊しにか』二〇〇二年四月号
- 「秦始皇帝不滅の帝国を目指して」『甦る古代文明と王朝の雅 西安』世界一〇〇都市、朝日新聞社、二〇〇二年
- 書評:『岩波講座東南アジア史Ⅰ原史東南アジア世界』『東南アジア歴史と文化』三一、二〇〇二年
- 「黄砂と黄土高原」『文明のクロスワード』第七三号、二〇〇二年六月
- 『歴史学事典』第一一卷「宗教と学問」弘文堂、二〇〇四年 焚書坑儒 文字統一
- 「中国古代文明雑論」『歴史と地理 世界史の研究』二〇〇四年二月
- 『世界史小辞典』山川出版社、二〇〇四年
- 冊封体制 東アジア文化圏 夏(王朝) 孫子 中華思想 洛陽 安陽 円錢(環錢) 河姆渡遺跡 牛耕農法
- 卿大夫士 呉 黄河文明 句踐 襄公 諸侯 莊王 中原 鉄製農具 武王 夫差 穆公 邑 良渚文化 馬王

堆漢墓 秦兵馬俑坑 三星堆遺跡 蔡倫 外戚 豪族 五銖錢 太尉 張陵 南海郡 半兩錢 貴族 州梟制
長江

「解説 始皇帝をとりまく刺客たち—『HERO』の歴史的背景」『HERO ヒーロー』ソニーマガジンス、二〇〇三年

「地下からの贈り物 簡牘資料の価値と研究状況(三) 始皇帝の時代の新出土資料—睡虎地秦簡・龍崗秦簡・里耶秦簡—」『東方』二七七、二〇〇四年

「解明進む始皇帝の帝国」『産経新聞』二〇〇四年九月四日

「大兵馬俑展の見所」『うえの』No.五四六、二〇〇四年一〇月

「兵馬俑・始皇帝陵 時を超えた謎と伝説」中国遙かなる美と世界遺産の旅バンフレット…阪急旅行社、二〇〇四年九月

「地下帝国の夢 大兵馬俑展—今、甦る始皇帝の兵士たち—」『産経新聞』二〇〇四年

「地下宮殿の守り人(上)(下)」『大兵馬俑展』に寄せて『聖教新聞』二〇〇四年一〇月一四日、二二日

「大兵馬俑展—今、甦る始皇帝の兵士たち」『新美術新聞』二〇〇四年一〇月一一日

「中国史の古代と現代」『史学雑誌』コラム歴史の風、二〇〇四年一月

「取り巻く兵馬 城内に文官 水鳥集う川辺も」『朝日新聞』二〇〇四年一月二三日夕刊

「天駆ける巨龍とファーストエンペラーたち 中国を知らずに日本も世界も語れない」『朝日新聞』二〇〇四年一月一五日

「中国の世界遺産」『世界遺産と歴史学』山川出版社、二〇〇五年

『歴史学事典』第二二巻「王と国家」、弘文堂、二〇〇五年 古代国家 中国 始皇帝 巡幸 治水行政 治水灌漑

- 「秦始皇帝研究の最前線」『史鏡』第五二号、二〇〇六年
- 「秦の時代」「始皇帝と司馬遷」「孔子と儒教」『週刊シルクロード紀行』No.四二、朝日新聞社、二〇〇六年
- 「秦兵馬俑が伝える始皇帝の世界」『アジア遊学』九六、特集資料に見る最新中国史、二〇〇七年、
- 「史記」の魅力」北方謙三『史記武帝紀』一、角川春樹事務所、二〇〇八年
- 講演 東アジア海の文明を求めて」『学習院史学』第四六号、二〇〇八年
- 「秦始皇帝 中国史上の統一を成した天下の覇者」『歴史読本 中国4000年皇帝覇業への道』二〇〇九年
- 「武帝を支えた二人の皇女」北方謙三『史記武帝紀』二、角川春樹事務所、二〇〇九年
- 「茂陵に想う」北方謙三『史記武帝紀』三、角川春樹事務所、二〇一〇年
- 「霍去病の石像の謎」北方謙三『史記武帝紀』四、角川春樹事務所、二〇一〇年
- 「環境変動と人類集団の移動 中国における集団の移動を中心に」『地球環境学事典』弘文堂、二〇一〇年
- 「武帝と汗血馬」北方謙三『史記武帝紀』五、角川春樹事務所、二〇一一年
- 「国家財政の破綻と再建」武帝と桑弘羊」北方謙三『史記武帝紀』六、角川春樹事務所、二〇一一年
- 「秦始皇帝の中華帝国への夢」『中夏文明の誕生』講談社、二〇一二年
- 「武帝の死」北方謙三『史記武帝紀』七、角川春樹事務所、二〇一二年
- 「秦始皇帝陵と兵馬俑―衛星画像を用いた自然環境の復元調査をふまえて―」日本女子大学文化学会『文化学研究』第二〇号、二〇一一年
- 「封建・郡県」「遺策」『中国文化史大事典』大修館書店、二〇一三年
- 「宇宙と地下からのメッセージ―秦始皇帝陵とその自然環境」『七隈史学』一七、二〇一四年

特別対談・鶴間和幸・北方謙三「人間・始皇帝の魅力に迫る」『文学』二〇一六年一・二月号

「秦の文字の統一の実態」『漢字三千年―漢字の歴史と美―』黄山美術社、二〇一六年

「漢字三千年展に見る始皇帝の時代」『東方』四三七、二〇一七年七月

「はしがき」『始皇帝』「嫪毐」「趙高」「二世皇帝胡亥」『悪の歴史』清水書店、二〇一七年

「李斯 始皇帝を支え続けた男の悲劇」『悪の歴史 東アジア編』特別付録、清水書院、二〇一八年

「秦始皇帝の焚書坑儒の真相」『文化遺産の意図的な破壊―人はなぜ本を焼くのか―』文化遺産国際協力コンソーシアム、二〇二〇年

「中国古代の任侠」『俠の歴史』東洋編上、清水書院、二〇二〇年

「講演 中国古代美術の海外流出」『学習院史学』第五八号、二〇二〇年

対談・天兒慧・鶴間和幸「中国の歴史」から読み解く現代中国のリアリティ」講談社『本』二〇二〇年一二月号

対談・鶴間和幸・上田信「史料は小説より奇なり 全集「中国の歴史」(講談社学術文庫版)をめぐって」『週刊読書人』二〇二一年一月一日

以上